

実施レポート

未来の建築家を育てる「中高生建築コンペ挑戦プロジェクト」 対面イベント交流会を「本の森ちゅうおう」にて開催しました 【株式会社 a.school×株式会社類設計室】

株式会社類設計室（大阪本社：大阪市淀川区 代表取締役社長：岩井裕介）教育事業部 しごと学舎「こども建築塾」は2026年4月19日（土）、株式会社 a.school（本社：東京都文京区 代表取締役：岩田拓真（以下エイスクール））と協働した「中高生 建築コンペ挑戦プロジェクト」のイベント交流会を行いました。イベント開催場所として弊社が建築設計を担当した東京都中央区立図書館「本の森ちゅうおう」の多目的ホールにて開催し、コンペの受賞者やエントリーした学生、こども建築塾生たちを含め約30名の参加者（オンライン参加含む）が集いました。



●お問い合わせ 株式会社類設計室 経営統括部 広報人材課

TEL : 06-6305-2222 [E-MAIL : kouhou@rui.ne.jp](mailto:kouhou@rui.ne.jp) <https://www.rui.ne.jp/>

イベントに参加した学生たちの声

・本の森ちゅうおうを回ってみて、まだ浮かんだことのないアイデアがたくさん思い浮かびました。絵はあんまり得意じゃないけど、やってみて楽しいなと思いました。(中1)

・本の森ちゅうおうをつくる時に、意識したことを聞いてよかった。同世代の建築を志す人と会えて刺激になった。(中3)

・まだ、スケッチはしたことがなかったけど、書き方を知れてよかった。家でもっとスケッチを書きたい。また、この図書館に来たい。(中2)

・オンラインでしか会ったことのない仲間たちと、設計への想いや本の森ちゅうおうを見ての気づき、志を交わすことができるとてもうれしかったです！(高3)

日本全国から集まった建築を志す学生同士と対面で会えたことへの喜びを感じる生徒さんや、本の森ちゅうおうを体感し刺激をもらったなど好評する声を多くいただきました。

当日のイベントの様子

「都心のオアシスになる図書館をつくりたい」という願いから生まれた本の森ちゅうおう館内を見学した学生たちからは「階段がいろんなところにあるから冒険してみるみたいだ」や「本棚の高さが高すぎず、奥まで見渡すことができる」「階段や棚の工夫された配置から本と新しい出会いがある」といった声があがりました。建築設計を担当した弊社一級建築士の山根教彦は「お客さんから『都心の中で都心のオアシスとなるような図書館をつくりたい』と話しました。その言葉から改めて『森』を感じることができる建物について捉えなおし設計にしていって」と述べました。同じく物件を担当した一級建築士の佐藤賢志も「関わる人すべてが幸せになれるような建築をしていきたい」という建築士としての志についても語り、会場内は盛り上がりを見せました。



「本の森ちゅうおう」担当 佐藤賢志（左）山根教彦（右）

◆スケッチワーク

館内見学や建築設計担当者への質問タイムの後は、本の森ちゅうおうを題材に、スケッチワークに挑戦しました。



多目的ホールを描く学生

未来の建築家を育てる「中高生建築コンペ挑戦プログラム」とは？

本プロジェクトは、弊社が長年培ってきた建築設計における知見と、エイスクールが持つ先進的な探究学習のノウハウを融合させ、これからの社会で求められる「自ら問いを立て、仲間と協働して答えを創造する力」を育むことを目的としています。

弊社は、これまで教育事業部しごと学舎「こども建築塾」を通じて、子どもたちが建築という「本物」の仕事に触れ、学ぶことの面白さや社会とのつながりを体感する場を提供してきました。そしてこの度、子ども一人ひとりの「好き」を起点としたプロジェクト型・探究型の学びを実践するエイスクールと協働で、より本格的で、子どもたちの主体性を最大限引き出す学びの場を創造できると確信し、本協働プロジェクトを始動しました。

参考：エイスクール×類設計室「未来をつくる学びの共創対談」

<https://shigoto.rui.ne.jp/news/aschool-crosstalk/>

「こども建築塾」のこれまでの実績

約3700名が大阪のこども建築塾へ参加、満足度90%以上を維持しています

こども建築塾が2023年から開講し丸3年が経過。現在も、模型作りや弊社が手掛けた物件の見学、スケッチ講座などバラエティに富んだカリキュラムを実施しています。

東京こども建築塾のこれまでの参加者数300名以上！ 昨年、東京にて本格開講を実施し、満足度97%

●お問い合わせ 株式会社類設計室 経営統括部 広報人材課

TEL : 06-6305-2222 [E-MAIL : kouhou@rui.ne.jp](mailto:kouhou@rui.ne.jp) <https://www.rui.ne.jp/>

これまでは「模型作り」や「スケッチ」「物件見学」などの講座を開催。
スケッチの講座では、『本の森ちゅうおう』や『長野オリンピックスタジアム』のデザインをした一級建築士の佐藤賢志による授業が行われました。

7月イベントスケッチ講座を行う佐藤



7月東京 3days
ダイジェスト動画



こども建築塾を開設した3つの背景

●一級建築士の7割が50代以上。少子化による建築業界の人手不足

公益社団法人日本建築士会連合会発表の資料によると、一級建築士の数は37万8,337人（令和5年4月時点）、平成31年以降は横ばいで推移しています（※1）。

国土交通省が発表するデータ（建築事務所に所属する一級建築士の数）によると、50代以上が全体の約70%を占め、20代～30代に至っては全体の11%に留まっています。これらの理由から、設計事務所として事業をスタートした当社にとって未来の建築士を育てることは使命であると考えています。

※1 [公益社団法人 日本建築士会連合会「建築士の登録内容の確認等 閲覧・資格証明に関する内容 4. その他 一級建築士登録状況」](#)から

●理系人材の育成が喫緊の課題。デジタルもリアルも使いこなせる大人に

日本では現在、2030年にIT人材が最大79万人不足するという試算があり、デジタル人材の育成が喫緊の課題となっています。そこで国と文科省は、理工農系の人材を育成しようと大学・大学院を拡充する支援事業を展開。これを受けて建築を学ぶことへの注目度も高くなっています。デジタルに特化した人材は増えると予想しますが、自分で「見て」「触って」「作る」というリアルな体験なくして建築に携わるのは難しいと考えています。そこで当塾では座学だけでなく、「粘土や紙で模型を作る」「身の回りのものを測る」「かんな削りや彫刻に取り組む」「野山にツリーハウスを設計する」など体験（リアル）を重視したカリキュラムを用意し、デジタル・リアル両方に精通した人材を育成します。

●教育事業を50年続ける会社として、「新しい学び方」を提案

当社には「類塾プラス」という教育事業部があり、勉強中心の学習塾が求められる時代からシフトしようと新たな事業を提案していました。その中で、自社所有林を持っていること、「仕事」体験を本格的に取り入れている「フリースクール」事業、そして当社の「設計」事業、それぞれの強みが生かせる事業として、こども建築塾を立ち上げました。カリキュラムには第一線で活躍する「建築のプロ」の実演はもちろん、当社の設計室で行うインターン（3年目）も組み入れています。当塾を通して「プロの現場」そして、実際の「仕事の場」を体感でき、知識を詰め込むだけではない「新しい学び」を提案します。

会社概要

活力ある社会をめざして、株式会社類設計室（読み：るいせつけいしつ）は、21世紀を牽引するお客様の戦略パートナーとして活力あふれる空間を設計しています。さらに「社会の活力を生み出す」という視点から、新しい教育・農業にも取り組んでいます。

<会社概要>

ミッション : 活力ある社会を設計する

会社名 : 株式会社 類設計室

設立 : 1972年

代表取締役社長 : 岩井裕介

所在地 : 大阪府大阪市淀川区西中島 4-3-2 類ビル（大阪本社）

: 東京都大田区蒲田 5-38-3 蒲田朝日ビル（東京本社）

事業内容 : 大阪設計事業部、東京設計事業部、営繕事業部、
教育事業部「類塾プラス」「類学舎」「自然学舎」
「しごと学舎」、農園事業部 類農園、地域共創事業部 類宅配、
5業態6事業を展開しています。

URL : <https://www.rui.ne.jp/>